



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2010.2

No. 310

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



『唐沢流・自然観察の愉しみ方』年末講演会から

(都市鳥研究会代表唐沢孝一先生が、昨年12月23日埼玉県支部年末講演会で話された内容の一部をご紹介します。)

心からわき上がってくる喜び、それが「愉しみ」です。その「愉しみ」の私なりの3箇条の一つが「吾輩はカラスである」という考え方です。つまり『吾輩は猫である』のネコと同じように、カラスから、或いはスズメから、ヒヨドリからの立場に立って物事を見るとどうなんだろうということ。これ、自然観察のポイントだと思うんですね。

2番目は「平凡な鳥の非凡な生活」です。スズメやカラス、ツバメなどの平凡な鳥の非凡な生活に一度はまると抜けきれません。

3番目は「歴史を通して自然を知る」です。人にも歴史がある。私にも60年以上の歴史がある。皆さんにもそれぞれ歴史がある。自然にも歴史がある。鳥にも歴史がある。だから鳥を見る時に、鳥を見る態度が備わっていないと鳥を追い払ってしまうことになるんです。

東京の鳥についてお話しします。

江戸の町にはどれくらい鳥がいたか、イラストで見ます。ソデグロヅル、アオサギ、タゲリ、コウノトリ、タンチョウ、トキもいる。ツバメもスズメも、ミサゴがこんな所でホバリングしている。向こうの江戸湾にはいろんな鳥がいますねえ。

明治10年頃、イギリスのマックベーンという人が江戸のことを書いています。それによると釣竿を伸ばしたくらい範囲に、ソデグロヅルやセイタカシギやトキがいるというんです。まさに江戸は緑と水と鳥のエコロジカルシティであるとして紹介しています。

当時、トキは数が多すぎて害鳥だったんです。八戸藩の古文書を読みますとトキを鉄砲で駆除したいという許可願が残っています。新潟では、鳥追いの歌にスズメとサギとトキは憎らしい害鳥だと歌われているのがありま



す。数が多いと害鳥なんです。数が少ないと特別天然記念物なんです、国際保護鳥にもなります。

今、スズメはどうでしょうか。1990年代にイエスズメを調べにロンドンに行ったことがあります。すごい数のイエスズメでした。しかし25年で9割減ってしまい、今はほとんど都心部にいないそうです。日本でも東京の都心部でスズメが激減しているんです。

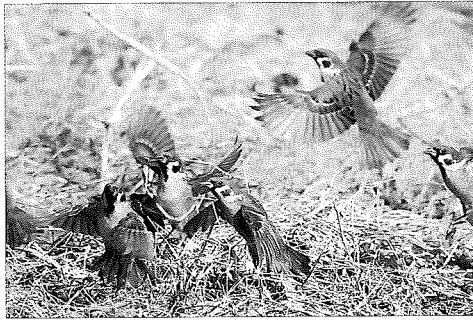
20年ほど前、庭の餌台に来るスズメに足輪をつけ、毎朝、出席をとったことがあります。

その年に巣立った子供達は、ちょっと親子で来るけれど秋にはもういなくなっています。ずーっといるのは親ばかり。つまり、縄張りを持って定着し、子育てをし、越冬する群、定着相です。

生まれた子供達は若い鳥同士で集団を作ります。群生相です。どこかに行ってしまう。或いは公園や駅前で群れています。死んでしまうのも多い。そして定着相が死んだり移動したりして、空き家ができると若い鳥がすっと入ってくるんです。日本中、若い鳥が空き家を求めて移動しているんです。

「スズメはアフリカ起原で、日本に帰化した」。私の仮説です。稲作と共に東へ分布を広げていったスズメがいて、その若鳥達が海を越えて日本に来たんだらと思うんです。

スズメはどこに巣をかけるのか。廃村になっても建物があっても人が住んでいない村は分



布空白部です。かつて三宅島が噴火したとき、島ではスズメがいなくなりました。現在、東京の都心部でも人の住まない所が増えていきます。そんな所は、スズメ分布空白部になりつつあります。

ツバメです。人をよく利用しています。特に営巣の場所です。今は自然の中で巣を作った事例はないですよ。人間のいる所に作っているんです。

では、いつから人家に巣を作るようになったのか。万葉集にツバメが来るという歌があります。多分に人家に来たと思われます。その前は文字がない。だから想像になります。田んぼの虫を食べるのはセキレイとツバメです。大切にされたことは予想されます。だから弥生時代からあの堅穴式住居に入ってきたのかなあ、と想像しています。

東京駅周辺では、ツバメは営巣しなくなりました。建物が変わり、夜間に人がいないからです。カラスがツバメの雛や卵を襲うんです。ツバメは家の中に巣を作りたいんです。しかし、最近では、土日にシャッターを下ろしてしまいます。外に作るとやられるんです。

身近なカラスとしては、ハシブトガラスとハシボソガラス。ハシブトガラスは、森林性で雑食性、嘴が太くて肉なんか食べています。地上では、主としてホッピングします。地上滞在での時間を調べた人がいる。30歩以内だったそうです。飛び降りてすぐ飛び立ちます。もともと森の鳥だからです。

ハシボソガラスの地上滞在時の歩数は、最大23分1000歩以上。のこのこ歩くウォーキングタイプです。これはもともと草原の鳥だ

ハシブトガラス	ハシボソガラス
森林性	草原性
森林・ビル街などに生息	見通しのよい耕地・河川敷に生息
嘴が太い 高さ25-30.5mm	嘴が細い 高さ17-21.2mm
「肉切り包丁」	「ピンセット型」
雑食性、脂質	雑食性、昆虫、種子
hopping	walking
地上滞在30歩以内	最大23分、1000歩以上
高所から飛び降りて採餌	歩きながら採餌

からです。東京は、以前はハシボソガラスが多かった。ところが、ビルが高層化するにつれ、見通しが悪くなり、ハシブトガラスの好む森林的環境へと変化したことがわかります。

東京のカラスの数を調べました。暮れに、5年ごとに明治神宮と自然教育園と豊島ヶ岡で調べています。1985年に6,700羽、1990年11,000羽、1995年16,000羽、2000年18,700羽、2005年11,200羽。だいぶ減りました。バブルの頃はどんどん増えました。これは生ゴミをどんどん捨てたからです。景気が悪いと減る傾向にあります。今回は6,000羽ぐらいに減ることを期待しています。来年、実施します。是非ご参加ください。

カラスは貯食します。多い時には70箇所ぐらいに隠すといわれています。全部場所を覚えている。しかも痛みやすいものから先に食べている。クルミのような保存のきくものは2、3ヶ月先に食べています。

このように、カラスは食べるものに事欠かない。生活が安定してくる。後は何をするか、遊ぶ他ありません。「カラス電線ぶら下がりごっこ」、これって全国的に流行っています。

(この続きは中央公論新書『カラスはどれほど賢いか』、明治書院『都会の鳥～生き残り戦略』などをお読みください。また、唐沢孝一で検索し「Karasawa Koichi 自然情報・親睦のコーナー」もご覧ください。唐沢先生はまさに博覧強記。しかし、講演内容は「むずかしいことを やさしく、やさしいことを ふかく、ふかいことを おもしろく」話されました。

文責：山部直喜、講演の写真：藤掛保司、スズメの写真：海老原美夫)

2009 年秋 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部 研究部

日時：2009 年 9 月 21 日 9:30～11:25

場所：さいたま市 大久保農耕地

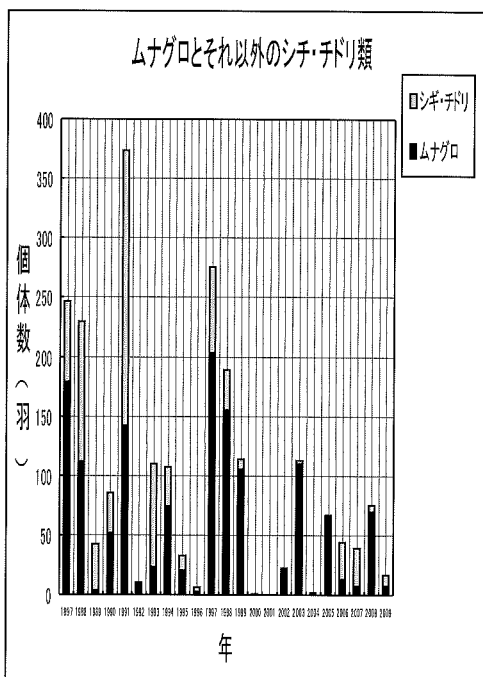
天候：曇り

当日は高気圧の中心が本州の東海上へ移動したため、雲の多い天気となりました。連休でしたが支部会員 14 名の協力が得られました。ご苦労様でした。

田んぼはほとんど湿っておらず、タシギが B 区で 1 羽、A 区で 8 羽、ムナグロは A 区上空を通過した 8 羽しか観察されず、鳥種・個体数は 2 種 17 羽でした。ムナグロが上空を通過したものしか確認されなかったのは、昨年と同じでした。

グラフは秋のカウント結果のうち、大久保農耕地におけるムナグロとそれ以外のシギ・チドリ類の個体数を、表は秋のカウント結果をまとめたものです。

(注) 種名不明のタシギ属およびシギ類は、種数に入れませんでした。(石井 智)



秋のカウント結果(大久保農耕地)

年	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	合計	
調査日	9/15	9/15	9/15	9/15	9/16	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/15	9/14	9/13	9/18	9/19	9/18	9/17	9/15	9/21		
天候	晴れ	曇り	晴れ	雨	雨	曇り	曇り	雨	雨	晴れ	雨	曇り	晴れ	曇り	曇り	雨、曇り	晴れ	曇り	晴れ	雨、曇り	晴れ	曇り	曇り		
1 タシギ					1																	2		3	
2 コチドリ		26						11	1		13														51
3 シロチドリ				2	2																				4
4 ムナグロ	179	112	4	52	142	10	24	74	21	3	203	155	105			110			13	8	70	8		1293	
5 ケリ		2																							2
6 キョウジョシギ					2																				2
7 トウネン					2		2																		4
8 ヒバシギ		1																							1
9 エリマキシギ											1	2													3
10 アオアシシギ																			5						5
11 クサシギ	1	1			1			1		1												3			8
12 タカアシシギ	36	15		12	17						4					3			6	1	7				101
13 イシシギ					5		1				1												1		8
14 ホウロクシギ														1											1
15 コシャクシギ												6													6
16 タシギ	29	72	38	20	185		80	19	11	1	51	24	6			17	3	1	60	23	15	4	9	688	
17 オオヅシギ										2					1							2			5
タシギ属	2	1			8			2			1	2	1			3				2	2				24
18 アカヒバシギ					9																				9
チドリ類											1														1
シギ類														1					1			1			4
合計	247	230	42	86	374	10	107	107	33	7	275	189	114	1	0	23	113	2	67	44	40	75	17	2293	



野鳥情報

さいたま市岩槻区平林寺 ◇10月3日、チュウサギ3羽、ダイサギ1羽、コサギ1羽など（本多己秀・久文子）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇10月7日、ケリ3羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月9日、コサメビタキ1羽、エゾビタキ3羽十、キビタキの声、カケスなど。10月14日、キビタキ♀1羽、エゾビタキ1羽、カケスの声。10月16日、つかず離れずのジョウビタキ♂1羽♀1羽を確認、今季初認。まだつがいのように見える一方、♂が♀を追いとばすシーンも見られた。オオタカがカラスにモビングされつつ飛行。10月20日、カケスが「ジュージュー」と騒ぎ、ツミが北へ飛び、エナガの群れが「ジュルル」と鳴きながら枝を渡って行った。10月27日、アオジの声、エナガの群れ、ジョウビタキなど。10月29日、カワウ、コガモ、オオタカ若鳥、チョウゲンボウ、イソシギ、カワセミ、ジョウビタキ♂♀、ウグイス、オオジュリン、アオジ、シメ、カケスなど（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇10月14日、ケリ5羽の飛翔を車の中より確認（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区上野田 ◇10月13日、ノビタキ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区中野田 ◇10月19日、上空をサシバ1羽が舞っていた（鈴木紀雄）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇11月6日～8日、シラコバト1羽（新井勇吉）。



8月20日乗鞍岳畳平 イワヒバリ
（増尾 隆）

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇11月3日、キビタキ♂1羽。11月に入ってキビタキを見たのは初めて。亜種オオカワラヒワ10数羽がアキニレの実を食べていた。11月4日、野球場にタヒバリ10羽十。アオジ、シメが増えてきた。11月8日、シロハラ、アカハラ、ツグミ、それぞれ数羽、シメ多数、イカル1羽。11月10日、トラツグミ1羽。ルリビタキ♂若鳥1羽（海老原美夫）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇11月7日午後2時30分頃、農耕地の荒川左岸、堤外の田んぼに今年初認のタゲリが約35羽、餌を啄んでいた（楠見邦博）。◇11月8日、ハシボソガラス10数羽中に、ミヤマガラス1羽。この地域では初めてと思う（海老原美夫）。

深谷市本田白鳥飛来地 ◇10月4日、オオルリ♂若鳥1羽、ノビタキ3羽、コサメビタキ1羽、エゾビタキ1羽、アオゲラ♂1羽、クサシギ8羽、ミサゴ1羽。オオタカ成鳥1羽、川中の石の上に佇んでいた。10月10日、オオルリ♀1羽、キビタキ♂1羽、ヤブサメ1羽、ショウドウツバメ多数。10月18日、ジョウビタキ♂1羽、カシラダカ1羽、エゾビタキ2羽、アオゲラ♂1羽、クサシギ2羽、ミサゴ1羽。モズが目立つ中、木の枝にアマガエルの「はやにえ」をするものもいた。10月24日、コハクチョウ2羽、前日に飛来したとのこと。ビンズイ1羽、オオジュリン1羽、シメ数羽、ジョウビタキ♂2羽♀1羽、オジロトウネン5羽、クサシギ5羽。ミサゴ1羽、川岸の樹上でしばらく羽を休めていた。10月31日、コハクチョウ2羽、前日までの4日間ほどは確認されなかったとか。ツグミ1羽、アカハラ2羽、タヒバリ4羽、アカゲラ♂1羽♀1羽、ジョウビタキ♂約3羽♀1羽、クサシギ3羽、オオタカ成鳥1羽、幼鳥1羽。カモ類は、時々上空を通過するだけだった（鈴木敬）。

杉戸町才羽 ◇10月8日、田んぼでケリ14羽、タシギ約5羽、上空をアマツバメ4羽が飛翔（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇10月21日、東埼玉病院東縁でコジュケイ2羽がゴソゴソ移動。カケスとクロジの声。イカル3羽+が樹上遠方に見えた。その他ウグイス、ヤマガラなど。10月22日、上沼でオオバン3羽、ゴイサギ幼鳥1羽、カイツブリ4羽+、カケスとウグイスの声、ヨシゴイ♀1羽が飛んで、アシの中に隠れる。民家のアンテナにジョウビタキ♀1羽。10月23日、東埼玉病院東縁でアオジ、クロジの姿確認。鳴声の聞き比べができた(鈴木紀雄)。◇11月7日、アリスイを今季初確認。11月15日、ヨシゴイ、黒浜沼で11月に確認したのは初めて(田中幸男)。

蓮田市根金 ◇10月23日、ミヤマガラス約50羽、コクマルガラス暗色型10羽、ハシボソガラス・ハシブトガラス計約50羽。合計100羽+の群れを確認。ミヤマガラス、コクマルガラスは上空高く、鳥柱をつくる(鈴木紀雄)。

蓮田市西城沼公園 ◇10月29日、ジョウビタキ♂4羽♀1羽、この場所で今季初認。♂が多いのが興味深い。コジュケイが大きな声で鳴き交わし、ツミ? が屋敷林に飛び込んだ。11月9日、ツグミ3羽 南から北に鳴きながら上空通過。ここで今季初認。ハシブトガラスがモグラをくわえて飛び去った。11月22日、カケスがハシブトガラスと竹林で混声合唱。11月24日、日中モズが稍で高鳴き。11月10日頃からモズの高鳴きは早朝だけで、日中は聞かなくなっていた(長嶋宏之)。

蓮田市江ヶ崎 ◇11月20日、タゲリ1羽を今季初認。この付近では年々飛来区域及び数が減少し、近年は当区域に数羽の飛来があるのみ(田中幸男・和子)。

蓮田市蓮田 ◇11月25日、散歩の途中、遠方からカラスの大群の飛翔を見つける。近づくると四方に散るも、線路際に下りたミヤマガラス70羽土を確認。近年この区域での観察が続く(田中幸男・和子)。

渡良瀬遊水地 ◇10月12日、チュウヒ2羽、ノスリ1羽、オオタカ1羽、ミサゴ2羽、ノビタキ3羽など(鈴木紀雄)。

菖蒲町小林 ◇10月24日、ムナグロ13羽飛翔、ニュウナイスズメ約50羽(鈴木紀雄)。

白岡町元荒川八幡橋下流 ◇10月27日、カイツブリ2羽、ダイサギ1羽、コサギ1羽、カルガモ18羽、コガモ15羽、ヒドリガモ5羽、イソシギ1羽など(長嶋宏之)。

羽生市羽生水郷公園 ◇10月28日、コガモ152羽、カルガモ151羽、オナガガモ3羽。宝蔵寺沼はカモを近くで観察できる。ジョウビタキ♂5羽♀2羽、カシラダカ1羽。共に私の今季初認。カワセミが2羽で追いかけて。ヒバリが空高くさえずっていた。11月19日、ツグミ25羽の群れが上空通過。シメ2羽この場所で初認。ハイイロチュウヒ♀1羽がアシ原を滑空。カワセミ2羽が水面を飛翔。ヨシガモ♂4羽♀7羽、オオバン7羽。その他オオジュリン、カシラダカ、ホオジロ、カルガモ、コガモなど多数(長嶋宏之)。

坂戸市西坂戸2丁目 ◇10月29日午前11時15分、「ヒッ、ヒッ、ヒッ」の鳴声に窓を開けると、自宅裏の公園のネットフェンスに、ジョウビタキ♂1羽がとまっていた。当地今季初認。翌30日も同所で姿を見る。いよいよ冬鳥の季節(増尾隆・節子)。

戸田市彩湖 ◇10月30日、カンムリカイツブリ9羽、今季初認。うち1羽は顔に幼鳥模様が大きく残っている。ほかに、コガモ、マガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、ハジビロガモなど。ユリカモメも増えた(海老原美夫)。

北本自然観察公園 ◇11月1日、ヤマガラ3羽とエナガ3羽が枝移り。アオジがアシ原で日向ぼっこ。アリスイが湿地の灌木の根元で羽繕い(長嶋宏之)。

菖蒲町小林 ◇11月4日、ニュウナイスズメ30羽土が田んぼで採餌したり電線で休んだり。ミヤマガラス10羽が圏央道の橋げたで休憩(長嶋宏之)。

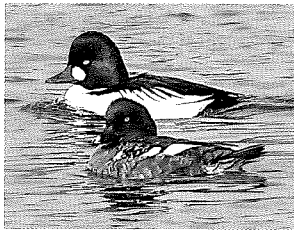
表紙の写真

タカ目タカ科オジロワシ属オジロワシ
11月28日(土)奥日光探鳥会で。

高田範之(三郷市)



行事案内



ホオジロガモ(鶺鴒喜雄)

嵐山町・菅谷館都幾川探鳥会

期日：2月6日(土)

集合：午前8時40分、東武東上線武蔵嵐山駅西口。または午前9時10分、県立嵐山史跡の博物館駐車場。

交通：東武東上線川越7:43発、寄居8:10発。
担当：後藤、大澤、青山、新井(巖)、中村(豊)、林、千島、鶺鴒

見どころ：冬鳥たちは北帰行に向けての体力作り中。採餌に追われるツグミやイカル、ルリビタキ等を観察します。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き8:37発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)、野口

見どころ：一年中で最も寒いこの時期は、見られる鳥の種類が多く、今回はルリビタキが見られました。ベニマシコも越冬中。青い鳥、赤い鳥を探しましょう。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50円、一般 100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:31発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：2月の石戸宿は冬鳥の観察に最適シーズン。ケラ類、カラ類、ツグミの仲間、青い鳥、赤い鳥に加え、アリスイやミソサザイにも期待しましょう。

狭山市・智光山公園探鳥会

期日：2月7日(日)

集合：午前9時30分、智光山公園管理事務所前。

交通：西武新宿線狭山市駅西口から、智光山公園行き8:57発バスで終点下車。

担当：石光、藤掛、久保田、山本(真)、小林(ま)、星、山田(義)、水谷、間正

見どころ：林や池が程よい広さの中に配置され、冬鳥の観察に適した都市公園です。冬枯れのフィールドでカラフルな鳥たちとの出会いに、寒さも忘れられます。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月11日(木・祝)

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。

または午前9時20分、市民の森入口前(土呂駅東口より徒歩約5分)。

担当：青木、工藤、藤原、浅見、有馬、松村、赤坂、阿久澤(廣)、阿久澤(キ)、金子、

船木、山田(東)

見どころ：前はミヤマガラス、アトリなど、ここでは珍しい鳥が出現。今回はどんな冬の小鳥たちに出会えるかな。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月12日(金)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅東口2番バス乗り場から、下笹目行き8:45発で「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、松村、有馬、赤坂、新部、赤堀、馬場

見どころ：昨年はこちらの確認鳥159種目としてイカルが出てくれました。カモやカイツブリ、カモメの仲間、ツグミ類など何が出てくれるか楽しみです。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月13日(土)

集合：午前9時30分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅から、立正大学行き9:10発バスで「滑川中学」下車。
ひとつ手前のバス停「森林公園南口入口」は通過してください。

費用：参加費とは別に入園料400円(子供80円)が必要です。

担当：中村(豊)、藤掛、内藤、佐久間、岡安、青山、後藤、山田(義)、高橋(ふ)、林、藤澤、宇野澤

見どころ：明るい雑木林の道を歩き、赤い鳥、青い鳥、黄色い鳥を探します。アフターは少し足を伸ばして見ごろを迎えた梅や福寿草の花見がいいですよ。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月14日(日)

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前駅。

担当：石光、長谷部、久保田、高橋(優)、持丸、小林(ま)、水谷

見どころ：2月は狭山湖冬鳥観察の最適期です。カイツブリ類は何種見られるでしょうか？湖畔の林の小鳥たち、オオタカとカラスのバトルも楽しみです。

群馬県・小根山森林公園探鳥会

期日：2月14日(日)

集合：午前10時、JR信越本線横川駅前。

交通：JR高崎線大宮7:41→高崎でJR信越本線乗り換え9:13発にて終点下車。

解散：午後3時半頃、横川駅にて。

担当：入山、玉井、野口、間正、藤澤、星見

見どころ：当支部として初めての探鳥地です。園内は遊歩道や観察施設が整えられています。運がよければ思わぬ鳥が見られるかも知れません。

ご注意：駅から公園、園内の往復で約7.5km歩きます。高低差もあり、健脚向きです。昼食は持参してください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ：冬の厳しい時期は鳥たちの姿を最も見つけやすい季節。林や草むらに鳥たちの気配が感じられます。秩父の山々を見ながら歩きましょう。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月20日(土)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発で「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：浅見、阿久沢(キ)、阿久沢(廣)、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：早朝の静かな公園では冬の小鳥を探します。荒川の土手では秩父連山をバ

ックに猛禽を、河原沿いの農耕地ではヒバリの囀りを楽しみましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：2月20日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月21日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：冬も終わりに近づき、あぜ道ではオオイヌノフグリやホトケノザが咲いています。冬鳥はそろそろ北へあるいは山へと戻りはじめます。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月21日(日)
集合：午前9時20分「つきみ荘」北側。「つきみ荘」内には駐車できません。
交通：JR高崎線本庄駅北口から、国際十王バス9:06発、伊勢崎行きで「坂東大橋南詰」下車。
担当：新井(巖)、倉崎、鶴飼、小池(一)、小池(順)、藤田(裕)、小淵、岡田
見どころ：年末のカモの集合状況は5種、約250羽とまだまだでした。さて当日は増えていてくれるでしょうか。ヨシガモはたくさん入っていましたよ。
ご注意：仮設のトイレはありますが、駅などで済ませておきましょう。

志木市・柳瀬川探鳥会

期日：2月21日(日)
集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅西口、スーパー・サミット前の円形広場。
担当：持丸、佐久間、高草木、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、山田(義)、

杉原、藤澤、山口

見どころ：冬鳥を見ながら、春を待つ柳瀬川をゆっくりと散策します。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月27日(土)
集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。
担当：新井(巖)、小池(一)、倉崎、藤田(裕)、大澤、小淵、鶴飼
見どころ：今シーズンは、シジュウカラとヤマガラが目立ちます。青い鳥や赤い鳥も期待します。

さいたま市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月28日(日)
集合：午前8時35分、東武野田線岩槻駅前。集合後バスで現地へ。または午前9時、文化公園駐車場(国道16号側)。
交通：東武野田線大宮8:18発、または春日部8:18発大宮行きに乗車。
担当：長野、吉安、玉井、田中、石川、長嶋、榎本(建)、野村(弘)、小林(善)
見どころ：春の息吹も感じられるこの頃は、冬鳥が北へ帰る準備に忙しく、アオジやツグミなどが地面で採餌をしている姿をよく観察できる時期です。

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月28日(日)
集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。
交通：東武東上線高坂駅西口、川越観光バス2番乗り場から鳩山ニュータウン行き8:53、9:04発で「大東文化大学前」下車、バス進行方向へ徒歩約5分。
担当：千島、岡安、志村、後藤、増尾、林、中村(豊)、山田(義)、増田
見どころ：人影も少ない静かな里山を歩いて、カラ類、ケラ類を観察。ルリビタキやベニマシコ、キクイタダキにも会えるかもしれません。



行事報告

8月23日(日) 千葉県 船橋三番瀬海浜公園

参加: 56名 天気: 晴

カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ
アオサギ ミサゴ ミヤコドリ コチドリ シロ
チドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシ
ギ トウネン オバシギ ミユビシギ キアシシ
ギ イソシギ ソリハシギ セグロカモメ ウ
ミネコ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセ
キレイ ヒヨドリ セッカ スズメ ハシボソガ
ラス (28種) (番外: ドバト) 晴れているが思った
より暑くない。まず浜に出てシギ、チドリを見る
が今年は少ない。東防波堤でカンムリカイツブリ、
そしてミヤコドリ、遠い沖合いの杭の上にミサゴ
が止まっていた。(佐久間博文)

9月21日(月、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 14名 天気: 曇

浅見徹、石井智、海老原教子、海老原美夫、佐久
間博文、志村佐治、鈴木敬、中川敏子、新部泰治、
馬場友里恵、安岡健一、安岡光江、吉原早苗、吉
原俊雄。さいたま市大久保農耕地で実施。連休中
にもかかわらず大勢の協力を頂いた。(石井 智)

9月22日(火、休) 坂戸市 高麗川

参加: 42名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル
ガモ オオタカ サシバ イカルチドリ イソシ
ギ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ キセ
キレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ モズ ウグイス シジュウカラ メジロ ホ
オジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (27種) (番外: ガビチョウ、
ドバト) 開始直前に上空でサシバが旋回し幸先良
いスタート。数は少なかったが例年並みの27種+
番外2種を確認。モズがあちこちに出現、高鳴き
を響き渡らせていた。ポイントの一つの城山橋下
流には釣り人が2箇所に入っていて残念ながら橋
上から鳥を見られなかった。彼岸花の赤が目立ち、
空には赤とんぼが舞い、秋を感じた。(山口芳邦)

9月27日(日) 狭山市 入間川

参加: 47名 天気: 曇

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カル
ガモ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメ
アマツバメ カワセミ アオゲラ コゲラ ツバ
メ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種)
(番外: ドバト) もう何年も前になるが、9月の
探鳥会にジュウイチやサンコウチョウが出たこと
がある。そのせいもあり、9月はもしかしたらと
期待してしまうが、残念ながら今年もなし。それ
でも、何度も現れたカワセミ、低く飛ぶヒメアマ
ツバメ、水辺の植物タコノアシなどを観察してそ
れなりに楽しめた。(長谷部謙二)

10月4日(日) 北本市 石戸宿

参加: 62名 天気: 晴

カイツブリ ゴイサギ ダイサギ カルガモ コ
ガモ コジュケイ バン キジバト ヒメアマツ
バメ アマツバメ カワセミ アオゲラ コゲラ
ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセ
キレイ ヒヨドリ モズ ウグイス エナガ ヤ
マガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズ
メ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブト
ガラス (30種) (番外: ガビチョウ) 釣堀の対岸の
上空をショウドウツバメが多数飛びまわっていた。
その中にはヒメアマツバメ、アマツバメ、ツバメ、
イワツバメも混じっていた。また何組ものヒヨド
リの群れが南方向に渡って行った。(吉原俊雄)

10月4日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 57名 天気: 晴

カイツブリ カワウ チュウサギ コサギ カル
ガモ コガモ オオタカ サシバ ハチクマ チ
ョウゲンボウ バン キジバト ツツドリ コゲ
ラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ
ヨドリ モズ エゾビタキ シジュウカラ メジ
ロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシボソガ
ラス ハシブトガラス (27種) (番外: ドバト) ヘル
シーロードコースに変更。いよいよ渡りの季節。
挨拶の後、サシバ1、ハチクマ1を見送って出発。
途中30羽ほどのサシバの渡りを観察でき、運のよ
い人はタカ柱も見られた。国昌寺の庭池でエゾビ

タキが水を飲む姿を間近で見ることができ、秋の渡りの季節を満喫できた。(手塚正義)

10月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 61名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ ミサゴ トビ ノスリ キジ アオアシシギ イソシギ タシギ キジバト アカゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 晴天に恵まれてはいたが、夏鳥、冬鳥の入れ替わり時季で鳥が少ない。しかし途中で、ノスリ、トビ等が出現。最終地点の明戸堰ではミサゴが姿を見せ、ホバリング後、魚をつかまえるところまで見せてくれた。一同感激。(後藤康夫)

10月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

池田泰右、海老原教子、大坂幸男、志村佐治、千野安以、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

10月18日(日) さいたま市 三室地区

参加: 58名 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ ハイタカ ノスリ バン イソシギ キジバト アマツバメ カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) 秋とは思えぬ暑さの中のスタート。間もなくオオタカの出現でみんな大喜び。土手を歩くとコガモやオナガガモが芝川を泳いでいる。暑い冬鳥は確実にやってきている。橋の上からは探鳥会の花ならぬ宝石のカワセミがばっちり見られ、これまたみんな大喜び。ノビタキを探しながら歩いていると、上空にはカラスにモビングされているオオタカや、優雅に舞うノスリ。オオタカより小さいハイタカが青空に溶け込みうっとり眺めていた。出現鳥は決して多くはないが充実した探鳥会であった。(青木正俊)

10月24日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水地

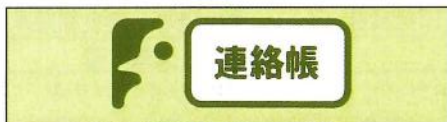
参加: 48名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ スズガモ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ コジュケイ オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト アカゲラ ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外: ドバト) 下宮橋で幸先良くアオジ、歩く内にハヤブサが飛んだ。中の島近くになってカモが近くなり、その後も合わせて9種確認できた。浮島の木にチュウヒが、ノスリもアシ原の木に、それぞれ止まっていて良く見えた。中の島で到着直後のジョウビタキを見られ、オオジュリンの声も聞こえて冬鳥の到来を実感できた。(玉井正晴)

10月24~25日(土~日) 長野県 戸隠高原

参加: 24名 天気: 両日とも曇

カイツブリ カルガモ サシバ キジバト アカゲラ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ アカハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ カシラダカ アトリ カワラヒワ マヒワ イカル シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 空には雲が拡がっていた。とりあえず、雨具の準備をして出発する。例年よりも鳥の影が少なく、ようやくカラとカシラダカの群れに出会うことができほっとした。その後も鳥影は少なく鏡池に到着してしまった。池はカルガモだけだった。隋神門近くでヤマガラを観察できたくらいで歩くうち、ようやく「水芭蕉のこみち」でアオゲラやマミチャジナイの群れを見つけ盛り上がった。翌朝も植物園に向かう。ツルマサキの実は付いているようだが、お目当てのムギマキが見つからない。時折、マヒワやアトリの群れが頭上通過するが、じっとしてくれず、消化不良気味。ここ10年で最も少ない種類数であったが、奥田旅館の心づくしの料理が存分に楽しめた探鳥会であった。(菱沼一充)



●密猟対策シンポジウムに出席

11月28日(土)～29日(日)熊本県内で全国密猟対策連合会主催の「第17回野鳥密猟問題シンポジウム九州大会 in 熊本」が開催され、埼玉県支部からは福井恒人幹事(県鳥獣保護員)が出席して12月20日(日)の支部役員会で結果を報告しました。初めて熊本地方検察庁の検事が参加して話をしたことが今回の特色であったとのこと。

なお、野鳥の密猟や飼養に関する違法と思われる事例を発見した時の連絡先としては、「密猟110番」が活動しています。『密対連』で検索してホームページを開き、『密猟110番』をクリックすれば、つながります。

●電車の一部不通に緊急対応

12月20日(日)三室地区探鳥会の日、浦和駅高架化工事で、南浦和・北浦和間が午前中不通、バス代行運転になりました。探鳥会は北浦和駅をひとつの集合地にしていたので、急遽支部ホームページ冒頭にその旨を掲載、「十分な余裕をもってお出かけください」と呼びかけるとともに、駅前の待ち合わせを30分間延長。結果として特に混乱はなくなりました。

●会員の普及活動

さいたま市立大戸公民館主催「シルバースクールおと」で、10月20日(火)「バードウォッチング入門」、12月1日(火)「白幡沼バードウォッチング」を、陶山和良が指導しました。

12月12日(土)、坂戸市環境学館いずみの講座「バードウォッチングウォーキング」を、高麗川とこはるが池周辺で実施。坂口稔・増尾隆が指導しました。

12月12日(土)、NPO法人越谷市郷土研究

会主催の越谷市保存民家・大間野町旧中村家住宅周辺の親子探鳥会を、野村修己・大塚操・吉岡明雄・新井良夫が指導しました。

●会員の写真展

町田好一郎野鳥写真展「利根川の野鳥たち」が開催されます。

場所 足利銀行本庄支店ロビー

日時 3月1日(月)～31日(水)(土日祝祭を除く) 午前9時30分～午後3時

●ごめんなさいコーナー

11月号表紙の写真は、ルリビタキ♀ではなく、み若鳥です。

1月号3ページ2行目、県内探鳥会出现鳥は「合計211種」を「合計221種」に、「出現率が増えた鳥62種」を「72種」に訂正します。

●会員数は

1月1日現在2,090人です。

活動と予定

12月12日(土) 1月号校正(海老原美夫・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。

12月20日(日) 役員会(司会：山口芳邦、各部の報告・探鳥会日程の変更・その他)。

12月21日(月)「支部報だけの会員」に向け1月号を発送(海老原美夫)。

●2月の予定

2月6日(土) 編集部・普及部・研究部会。

2月13日(土) 3月号校正(午後4時から)。

2月20日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

2月21日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

月に1度、地域で個人的な探鳥会を始めた。これがなかなか楽しい。喜んでくれている姿を見て、こちらが嬉しいのだ。この人達が会員になってくれると更に嬉しい(山部)。

しらこぼと 2010年2月号(第310号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社